

2024年9月11日

学校法人山口学園

ECC 国際外語専門学校

学校関係者評価委員会

## 2024年度第1回 学校関係者評価委員会 報告書

学校法人山口学園 ECC 国際外語専門学校は、「学校関係者評価委員会規定」に基づき  
2024年度第1回学校関係者評価委員会を実施いたしましたので、以下の通り報告いたします。

1 実施日時 2024年9月7日(土) 14:00-16:00

2 実施場所 ECC 国際外語専門学校 1号館5階501教室

3 学校関係者評価委員 ※順不同

(1) 関連業界等関係者

委員長	岸部 雄二 氏	株式会社Kスカイ 取締役兼総務部長
企業関係者	五十嵐 駿太 氏	株式会社 With The World 代表取締役
高等学校関係者	貴治 康夫 氏	立命館中学校・高等学校 教員
地域関係者	中上 隆雄 氏	済美地域社会福祉協議会 会長(欠席)
保護者代表	高田 由紀子 氏	国際エアラインコース2年生保護者
卒業生代表	杉井 繭 氏	2018年度海外インターン総合英語専攻卒業
卒業生代表	荒木 駿汰 氏	2020年度海外インターンホテルコース卒業

(2) 同席者

大谷内 圭	ECC 国際外語専門学校 学校長
東井 喜美	ECC 国際外語専門学校 副校長
榑原 悠佑	ECC 国際外語専門学校 教務課責任者
松井 治	ECC 国際外語専門学校 教務課英語チーム
岡 圭一郎	ECC 国際外語専門学校 広報課責任者
南條 祐麻	ECC 国際外語専門学校 入試課責任者
杉田 典彦	ECC 国際外語専門学校 キャリアセンター責任者
新谷 優貴子	ECC 国際外語専門学校 教務課専任教員
久保 友嗣	ECC 国際外語専門学校 教務課主任(書記)

4 報告内容

(1) 開会挨拶・学校組織について 【大谷内】

- ・課題を中心に忌憚のないご意見をいただき、学校運営活動の改善に努めていきたい
- ・ECC 学園高等学校が4月1日より榑ECC から学校法人山口学園へ移行
- ・24年度運営コース、専攻改訂について説明(韓国、総合英語、高等部韓国語)

(2) 2023年度自己評価報告書に基づいた説明 【各関係部署担当者】  
別資料「2023年度自己評価報告書」に基づき報告。以下特記事項のみ記載

基準3 教育活動 目的に沿ったカリキュラムの検証、教育成果の把握 【榊原】

- ・コース会議を毎月実施し、意識共有と確認の機会を設けている
- ・目標設定シートを活用し、前後期の担任面談時に学生の到達度を確認している
- ・専門、英語分野で達成できていない目標に対して、担任から助言を呈している
- ・職業観の育成が難しい総合英語コースに「キャリアリサーチ」科目を新たに導入し、今後は韓国語コースにも同科目の導入を検討している
- ・年4回授業アンケートの実施、ICTや学校行事に関する項目は、目標数値を下回った
- ・スピーチコンテストやGEAで成果発表の場を設けているが、学生の参加意識が低い
- ・英語進級基準を設け、英語レベル別編成クラスを配置している
- ・韓国語コースの英語力向上が課題、韓国留学期間中もオンライン学習の受講を促している
- ・教員の業界知識をブラッシュアップするため、航空業界の外部研修を受講
- ・業務属人化を防ぐため、コース担当を2名体制に変更した

基準4 学修成果 就職率、卒業生の社会的評価 【杉田】

- ・2024年3月卒業生の就職データ（内定率、業界/語学活用率）説明
- ・企業のニーズ（主にビジネスメール）や基準に見合う人材育成を心掛けている
- ・社会人に必要とされる資質（自律性、主体性）、特に語学系コースは職業観の育成が課題
- ・学生のゴールとキャリアの結びつきが弱い。道筋立て、布石を打つことが必要

<基準3・4 委員様からのご意見、質疑応答>

●キャリアリサーチ科目導入について

Q. 語学を活用しない業界・進路を希望する学生への対応は？ 【杉井】

→学生の多様化に伴い、海外で働きたい人のためのセミナーを開催するなど、従来の説明会とは異なるかたちで、内容の見直しを図っている。夏期休暇期間中に就職個人面談を実施し、個々のニーズに見合いそうな企業説明会の提案、求人紹介を行っている。【杉田】

●3-10-2 成果発表会 GEA について

Q. 学生の参加意識が低い、出場者を集めることに苦労されているのは驚いている。

選出基準や応募方法は？（担任の先生からの推薦が必要？） 【荒木】

→特にコロナ禍を経て、学生たちが消極的になってきたように感じている。挙手制での参加が少ないため、各クラス1名以上の参加を担任へ依頼している。【松井】

Q.アーティスト美容専門学校とのEコレとの違いは？ 【五十嵐】

→Eコレは、全コースのカリキュラムに最初から組み込まれており、Eコレを目指して入学してくる学生も多い。入学前からの学生のモチベーションに相違がある。【東井】

→組織として主体性を望みたいところではあるが、なかなかうまくいかないことが多い。強制参加にさせて、その過程の中で（後々）主体性を育めるケースも多々ある。【五十嵐】

●保護者の観点から 【高田】

- ・義務教育～大学を卒業するまでが「学校生活」「教育を提供してもらえる」という風潮
- ・高校卒業後は、自分で学び切り拓いていく、という切り替えが今の子どもたちには難しい
- ・ECC国際外語は、様々なことにチャレンジできる学校という印象が強い
- ・海外インターンシップ：問題を乗り越えるために自分で考えて行動する貴重な経験、本人の自信に繋がると思う。海外へ送り出す環境がある事が非常に素晴らしいと感じている。

●3-9-1 目標設定シートについて 【五十嵐】

- ・年3回の振り返りでは目標を忘れがちになる、月ごとの目標設定と確認が必要
- ・目標の解像度を高く具体的に言葉にしてまとめ、学生自身に落とし込むことが重要
- ・目標設定シートと学生のゴール（キャリアビジョン）がリンクしていた方がよい

●3-9-4 授業評価について 【五十嵐】

Q.力のつく満足度が高かった理由は？（ICT活用？調べ学習？何が良かったのか？）

Q.学生のリサーチの質は向上しているか？先生方は実感できているか？

→留学生と日本人学生と一緒に学ぶ多文化共生理解の授業で、PCを活用して異文化をリサーチし、グループ発表を繰り返し行っているため、調べ学習の機会は増えている【榊原】

●4-13-1 就職率について 【五十嵐】

Q.就職内定率の100%は学校の期待する就職先に結びついているのか？

→語学系コース（英語・韓国語）は、語学を活用して何をしたいかが明確でない学生が多い

→本人が長く活躍できそうな仕事内容を理解させて、企業マッチングを図っている【杉田】

Q.目標設定シートの最終目標と学生の希望就職先はマッチしている？

→まだギャップがある。本来の目指すべきところと就職実績が同じとは限らない【杉田】

→目標設定シートの内容とその先の進路がどういう風に繋がっていくのか理解できていない学生が多い。キャリアとの結びつきのギャップを埋めるところが肝では？【五十嵐】

→18歳で設定した目標をピン止めしたように達成できる20歳が多くいるのだろうか？→学生さんや先生方も目標をガチガチにしてしまうと後が苦しくなることもある

→入学後、色んな職業観を提供しつつ、学生達に模索してもらうのも良いこと【岸部】

Q.グローバルビジネス業界就職率が低い理由は？学生の満足度は？【貴治】

→全員留学生のクラス。物流、商社、メーカーの海外事業部を業界就職として定義している

→物流、商社は日本人学生にも人気の業界。日本人と同じ土俵で闘うのは容易ではない

→留学生が母国大卒の場合、就労ビザ「国際業務」でホテル業界に就職できてしまう

グローバルビジネスの目指す業界就職%としてカウントしていない【杉田】

●その他情報共有 【五十嵐】

→授業満足度の高い先生＝フィードバックをくれる先生

→満足度の高い先生の授業を分析し、その先生による教員研修は非常に効果的

→韓国語コースの英語力：留学中に英語で韓国語を学ぶ（ハイブリット型）も面白そう  
ただ学生がついてこれない懸念もある

→日本の大学に通う留学生の就活対策はインターンシップ 即戦力をアピールしている

基準5 学生支援 【榊原】

- ・2023年度から就職指導を日本人と留学生同じ体制で実施している
- ・キャリアマップ（システム）が浸透、活用できていない
- ・休退学防止の取り組み、学生の居場所づくりに注力 SST を立ち上げた
- ・学生カルテの活用 担任満足度は過去最高の4.55になった
- ・学生の多様化への対応として 教職員向けのコーチング研修や傾聴研修を実施
- ・留学生の急増に伴い、南アジアの言語対応可能なスタッフの配置検討が必要
- ・2019年度から発足している「学生会」への留学生参加率が低い
- ・保護者会の参加率60% 繋がりたい保護者に限って連絡がつかないことが多い
- ・卒業生LINEを導入するも、卒業生支援や卒業生を巻き込んだ企画実施ができていない

●保護者との連携について【高田】

- 毎回、保護者会を楽しみにしているが参加率が60%しかないのは驚いている
- 保護者向けアプリはいつも確認しており、ボランティア活動の情報も興味深い
- 保護者同士の繋がりもあると良い。茶話会の設定があれば交流の幅が広がる

●卒業生・社会人について【杉井・荒木】

- 学校アプリはログインIDがわからない。卒業したら学籍番号も忘れてしまう
- LINEが稼働しているのを知らなかった。登録して、同級生に広めていきたい。

●学生の居場所づくりについて【荒木】

- 同じコースだけでなく、コース横断で他コースの学生と交流する機会があると良い
- 共通英語クラスのメンバー内で行うイベントがあれば、交流を深められる

基準6 教育環境【松井・新谷】

- ・学生全員へPCを貸与、Wi-Fi環境が万全とは言えずポケットWi-Fiで対応する事もある
- ・海外渡航費用が高騰した為、海外留学の参加者は減少するも、個々の満足度は非常に高い
- ・学生にかかる費用負担軽減のため、有給インターンシップを再開
- ・2024年4月から2名がトライアルでニュージーランドへ渡航。来年は10名参加予定

基準7 学生募集【岡】

- ・留学生の入学者数が増え、学生5人に1人は留学生の割合
- ・18歳人口減少、大学全入時代、職業絞り込み不安等の風潮もあり日本人募集は厳しい
- ・2020募集では500人以上いた入学者も2022募集で200名以下に激減
- ・観光業界の求人は増えつつあるが、学生募集はV字回復とは言えず、緩やかに微増の状態
- ・担当者変更に伴い、緻密な募集イベント設計、引き継ぎが十分とは言えなかった
- ・卒業生取材に力を入れ、高校生の憧れに刺さりやすい広報展開をしていきたい

Q. 大学に通いながら、専門学校に通うWスクール制度の可能性は？【貴治】

→夜間部を設置していないので、過去においてもWスクールで通う学生はいなかった

→学園全体に関わる案件のため、今後の営業会議で協議する余地はありそう【大谷内】

→ある高校は専門学校とパートナーシップを組んでいる【五十嵐】

→高校側は探求の時間に注力しているため、専門学校と相性が高い。授業連携しては？

→パートナーシップ提携を組んで特別講座を実施すると学校の認知度が広がる

→府立高校においても留学生（ネパール、南米チリ）が増えている【貴治】

→高等部やECC学園高校にも留学生の受け入れを検討しては？

基準10 社会貢献・地位貢献【松井・中上】

- ・留学費用が高騰している為、海外オンラインで繋ぐ等のハイブリッドな取り組みを実施
- ・中崎町キャンドルナイト（2月）、済美地区カーニバル（7月）にECCの学生が参加
- ・今後も引き続き、社会経験として活動を続けてほしい【中上様メッセージ代読】

総括【大谷内】

- ・重点目標である収益増（学生数減少に伴う収益減）が学校として大きな課題
- ・多くの学生が入学したくなる魅力ある学校づくり、高校へのアプローチ努力を続ける
- ・教育活動に関わる経費も最小限に抑えた運営管理を継続して取り組んでいきたい
- ・質保証：学校関係者評価委員会に高校関係者と保護者の方を招致できたことで、前年度までの課題としていた部分を解決することができた

- ・教員評価：教員との面談回数を増やし、チームとしての意識共有、構築に努めている
- ・主任教員は目標設定シートに基づいた面談を年2回実施している
- ・常勤教職員全員参加の全体会を年2回実施している（方針共有・各部署目標共有）
- ・学生数が多かった時代の組織文化（部署間の縦割り、個々の自由度が高かった状態）を1つのビジョンに向かってチームで共有して進んでいく組織へ立て直している途中
- ・年度末の第2回目の委員会にて改めて結果をご報告させていただく
- ・アセスメント：データの活用、組織間でのデータ共有、繋ぎ合わせが課題と感じている
- ・留学生増加に伴う受け入れ体制の強化、日本語教育の質向上も今後の課題

### （3）コンプライアンス研修について ヒアリング

- ・3カ月に1回 1～2時間程度のハラスメント研修が実施されている【荒木】
- ・研修に参加できなかったスタッフ向けに同じ内容で実施されているケースもある
- ・個人情報の取り扱いやカスタマーハラスメントについての研修
- ・年2回コンプライアンスやハラスメントに対する検証が学内で行われている【貴治】
- ・弁護士による事例研修、専門科による講演（約1時間程度）
- ・ただ研修を実施するのではなく、教育現場の具体例でないと効果がない【岸部】

### 総評 【岸部】

- ・目指すところは、希望の会社へ就職させるのではなく、学生がそこで活躍できるかどうか
- ・専門学校と大学の違い 大学生は放任されて良い意味で自律の力が養われている
- ・ECCも海外経験や様々なプログラムを通じて、学生自身が考える活動に注力している  
昨年と流れが変わったように感じる
- ・学生たちの気づきや考える機会を今後も継続してほしい

### （4）閉会挨拶【東井】

- ・委員の皆様から頂戴したご意見を今後の学校運営・教育に反映していく
- ・進捗に関しては、第2回学校関係者評価委員会で報告させていただく
- ・第2回実施日程：2025年2月8日（土）14:00-16:00 予定

## 5 いただいた意見の活用について

課題に対して新たな気づきが得られた委員会となった。

学修成果へのアプローチにキャリアセンターと教務課で部署ごとの縦割りが発生している。部署連携を強化し、学生の目標達成へのプロセスを共有していく仕組みづくりをしていく。あらためて目標設定についての重要性を再認識することができた。一方で入学時に職業観を持っていない学生が多い語学系コースは、目標設定に柔軟性を持たせることも必要。

学生生活では保護者間がつながりを持てるアプローチも効果的であることがわかった。また英語のクラスを通じた横断的なかわりが増やせば、より充実した人間関係が構築できることは次年度工夫ができる大きなポイントである。

コンプライアンス研修の実施は課題であったが、重要性や頻度についてご意見をいただくことができた。実行に向けて次年度計画に組み入れていきたい。

いただいた意見を参考に課題への対策を検討し第2回学校関係者評価委員会で検討結果の報告を行う。

以上